

令和5年度 第3回 中能登町立中能登中学校 学校運営協議会 議事録

【日 時】	令和6年2月6日（水）14：45～15：45
【会 場】	中能登町立中能登中学校
【出席者】	大西保・木村実貴絵・高橋加奈美・鳥木教文・水谷内良郎 中能登中学校校長（50音順）
【欠席者】	岡下哲也・加賀賢成（50音順）
【事務局】	中能登町教育委員会 高木宣維・大野知子・中瀬信二・山口千鶴
【次回予定】	

進行：大西委員長

1. 事前参観 総合学習の授業の見学

2. 報告事項

- ・令和6年能登半島地震をうけての、今後の危機管理と防災管理について
質疑等なし。
- ・中能登しごと館／部活動地域移行の進捗状況について
質疑等①) 部活動地域移行について、多くの方が協力的で良いスタートが切れた。外部指導者と交流を図れる場を設け、学校長の意向を聞いたうえでサポート体制を強化したい。
⇒教育委員会としては今後、説明会・検討会を予定。学校長の意向としては、令和6年度について、土日移行できるところから順次進めていく。
質疑等②) 中能登しごと館について、関わる人がみんな元気をもらっている。規模を縮小しても良いのではないかと感じた。是非継続して開催してほしい。

3. 協議事項

- ① 1年生の総合学習（テーマ：中能登町のごみ問題・SDGs）について
 - ・非常に良い課題。継続できれば、中能登中学校としての特別な活動になる。他国には色々な例がある。エコやごみ問題についてアップデートする必要もある。まずは子どもたちが身近な家庭のごみの分別やごみ捨てをしてみるところから始めてみてはどうか。
 - ・新たな課題設定としては、地域とどう繋げていくか。織物業がより盛んだった過去があるが、下火になってきて、過疎高齢化も進んでいる。急激には難しいが、子どもたちがもっと明るい楽しい町にするためにはどうしたらいいかと子どもたち目線で考えてもらうのも良い。
 - ・子どもたちが地域や店などとコラボして、何か作るという方向に進むのも良い。町のために、1年生で学んだことを次の学年で実際に実行・提案できれば、大人の意識も高まる。
 - ・1年生の1年間だけでは、調べて提案する形で終わってしまう。具体的な動きに繋げていけると学びの意味がある。1年生だけでなく、学校全体で共有すべき。
⇒1年生から意識して学ぶことで、次の段階へ行動に移しやすい。より発展させていきたい。
- ② 令和6年度学校運営に向けた教員の働き方改革について
 - 1) 業務の効率化について
 - ・事務作業が負担になっているのではないかと。英検や通学補助等の補助金・助成金になると、特定の人の負担が大きい。例えば、英検については、受験者が多いため、英語担当の先生の負担は大きい。
⇒教育委員会の業務としても煩雑。どちらも win-win になる方法を考えられたらいい。
 - ・子ども医療費など、以前は領収書を持って申請する必要があったが、今は医療機関に受給者証を提示するだけで支払が不要になっている。そのような、学校などに負担をかけず、一括で申請できるようなものがあればいいのではないかと。

- ・学校は受験者を把握したいと思うので、コドモンなどを活用して打開策も見つけられるのではないか？町としての対応策はあるか？
⇒ロゴフォームなどを活用しながら、電子化していくことで学校側も保護者も負担軽減するのではないかと。学校のニーズと教育委員会の話し合いも必要になってくる。
- ・コドモンについて、ネックとしては、件数が多いと情報を見落としてしまうこともある。お子さんが多い家庭は大変なのは。
⇒便利な部分もあるが、マメにチェックしないといけないので、大変な部分もある。
- ・今回の事前アンケートはとても便利だった。（委員さんへの出欠確認・アンケートについて、ロゴフォームより実施）町の罹災証明申請も簡単だったので、こういったものを学校の事務業務にも活用することで、効率化を図れるのではないかと感じた。
⇒検討材料になる。教育委員会で話を進めていきたい。
- ・学校運営協議会として、システム化に向けて考えて頂きたいと思う。
⇒先生方だけでなく、PTAさんにも、こっちの方が楽だと思ってもらえるといい。

2). 教員や生徒が抱える悩みや課題の解決について

- ・幅は広い。多種多様。
- ・現場の声を掬い上げる体制としては、学校にスクールカウンセラーがいる。
⇒生徒の声はスクールカウンセラーから校長に降りてくるのか？
⇒必要最小限のことしか降りてこない。それとは別に、タブレット端末にて、生徒それぞれの悩みなどを聞く機会を設けている。教員で情報共有し、話し合いなどもしている。
- ・教員の悩み事については、教頭や主管教諭が行っている。
- ・全てを実現したり、全ての想いを反映させるということができるわけではないが、教員や生徒が気軽に声をあげられる場も作れたらいいのではないかと。
- ・町から依頼された行事などについて、負担を感じているものもある。なくすことは難しいこともあると思うが、気持ちや内情を理解してほしいという思いもある。
⇒良いところもあるが、本来の意図しているものとずれているところもあるのではないかと。
- ・学校運営協議会として何かしら提案することはできないだろうか？声を聞く場を作っていけないだろうか？
⇒古い時代では「飲み会にケーション」があったが、今はそんなことを求められる時代ではない。
⇒他市区町村のコミュニティ・スクールの事例としては、学校運営協議会に教員が参加して、教員の日常を知るということを企画しているところもある。生徒にも参加してもらって生徒が自ら企画・立案する場を設けているところもある。
⇒教員や生徒が委員になるわけではない。ゲストとして招くということもできるのでは。
⇒学校運営協議会との交流会をランチルームのような気軽な場でやってみるのも良いのでは。
⇒来年度以降に方向性を探っていき、実行に移していきたい。